

## 青島派遣レポート

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)

山野 柚香

## ～中国のデリバリー文化～

初めまして。2025年9月から中国青島市へ派遣されました山野です。青島市に派遣されて約半年が経ちましたが、生活の中で大変お世話になっている中国のデリバリーについて紹介します。

現在、中国ではデリバリーサービスが生活に欠かせない重要なインフラの一つとなっており、コーヒー1杯のような少額の商品でも気軽に注文することができます。手軽に利用できる背景には、手数料や配送料の安さがあります。店舗によっては配送料が無料であったり、割引クーポンを利用することで、実際に店舗へ足を運んで購入するよりも安くなる場合もあります。

また、新型コロナウイルスの流行により人との接触を避ける生活が求められたことも、デリバリー需要拡大を後押ししました。さらに、中国では電子決済が広く普及しており、スマートフォン一つで注文から支払いまで完結できる点も、デリバリー文化が発展した大きな要因の一つと言えるでしょう。実際私は青島生活の中で、現金を使用したのは1度しかありません。加えて、GPS機能を活用することで、配達員の所在地をリアルタイムで確認でき、配達状況が分かりやすい点や、配達員と電話やチャットで連絡が取れる点も利用者の安心感に繋がっています。業務の一環で青島大学にて中国語の授業を受けているのですが、食事の時間帯になると、多くの学生が校門前に集まり、デリバリーで注文した商品を受け取っている光景を日常的に目にします。

デリバリーというと食事を思い浮かべがちですが、中国ではそれにとどまりません。市販薬や生花、スーパーの食材、日用品など、幅広い商品を注文することができます。そのため、体調が悪く薬局まで行く元気がない時や、「友人の誕生日なのにプレゼントを買いに行く時間がない」といった場合でも、花やケーキを30分程度で届けることが可能です。このように、デリバリーは人々の生活を柔軟に支える存在となっています。

デリバリーの便利な仕組みの一つに、スマート宅配ロッカーがあります。これはスマートフォンと連携して商品を受け取ることができるロッカーで、主にオフィスビル、集合住宅、大学構内などに設置されています。配達員が指定されたロッカーに商品を入れると、注文者のアプリにQRコードや暗証番号が送信され、それを使ってロッカーを開けることで商品を受け取ることができます。この仕組みにより、対面での受け取りが不要となり、注文者は自分の都合のよい時間に商品を受け取ることができます。中には保冷機能付きのロッカーもあり、食品の品質維持にも配慮されています。

一方で、デリバリー文化の発展に伴い、さまざまな問題も生じています。まず挙げられるのが、配達員の過酷な労働環境です。多くの配達員が歩合制で働いており、配達報酬が安価であることから、より稼ぐために長時間労働を余儀なくされています。現在のデリバリー文化は、こうした配達員の負担の上に成り立っている側面があると言えます。また、デリバリーによって大量の包装廃棄物が発生し、環境への影響も無視できません。実際に、大学内のごみ捨て場には、デリバリー用の包装袋や容器が多く見られます。

このような問題に対して、近年ではドローンや自動配送ロボットを活用した無人配達の実験も進められており、配達員の負担軽減や人手不足の解消が期待されています。また、注文時にアプリ上で箸やスプーンなどの食器の梱包を不要とする選択もでき、廃棄物を減らす工夫も取り入れられています。

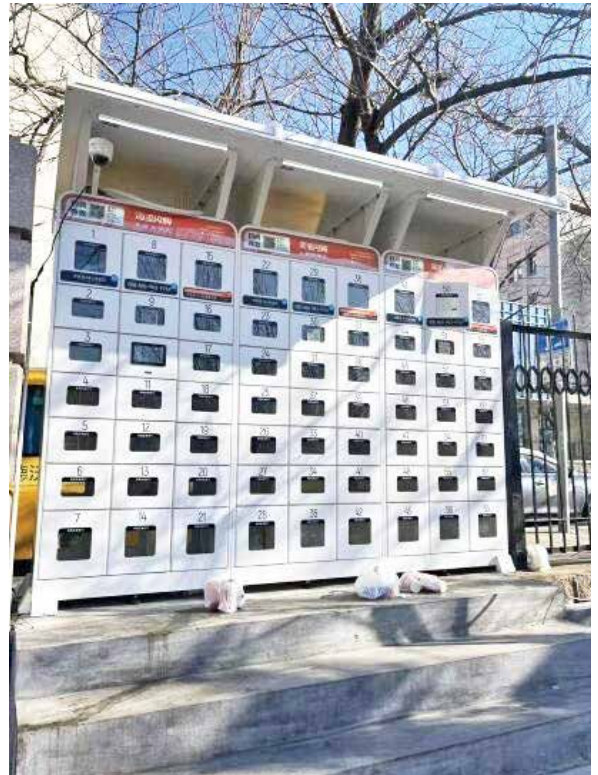
以上のように、中国のデリバリー文化は多くの利便性をもたらす一方で、労働問題や環境問題といった課題も抱えています。これらの問題を解決しながら、今後デリバリー文化がどのように発展していくのか、引き続き注目されます。



バイクで配達されたケーキ。崩れることなくきれいな状態で配達されました。



校門前に配達された多くの商品



青島大学内にあるスマート宅配ロッカー

【関連ニュースURL】

人民網日本語版

「中国のオンラインデリバリーユーザーが5.45億人に拡大 世界最大のデリバリー市場に」

<https://j.people.com.cn/n3/2025/0116/c94475-20266971.html>

CNNIC第55回調査報告 「我国网上外卖用户规模达5.92亿」（中国語）

<https://www.100ec.cn/detail-6646328.html>

CNN.co.jp

「世界最大のフードデリバリー市場、中国で配達員が崩壊の瀬戸際」

<https://www.cnn.co.jp/business/35225087-3.html>